

第6学年 道徳学習指導案

1 主題名 よりよい学校に（内容項目4－（6）愛校心）

（資料名「きえた紙くず」（出典：みんなのどうとく小学校6年 学研）

2 主題設定の理由

（1）ねらいに関わる児童の実態

本校は、各学年3学級以上の大規模校ではあるが、学年を縦断するたて割り活動を活発に行っている。毎週火曜日には、あさかぜ活動というたて割り活動の時間が設定されており、清掃をしたり運動会のたて割り種目である長縄の練習をしたりしている。多くの6年生の児童は、縦割りのリーダーとして、毎時間の計画をたて、下の学年の児童を引っ張っていこうと努力している。しかし、学校のため、みんなのために働くことに対して、「面倒くさい」「誰かがやってくれる」と他人事のように感じている児童もいて、個人差が見られるのも事実である。半年後の卒業までに、「自分たちの学校のためにできることをしたい」「自分たちの学校をよりよくして卒業したい」という気持ちを持たせたり「よりよい玉諸小学校にするために自分たちに何ができるだろうか」と考えさせたりすることは大変意義深いと考える。

（2）ねらいとする道徳的価値について

高学年における愛校心とは、先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力しあい、よりよい校風をつくる心情を育てようとする項目である。

愛校心とは、学校生活を送っていくなかで、自分が通っている学校に対し愛着を持つところからはじまる。愛校心を更に深めるためには、自分を育ててくれている学校、支えてくれている学校に関わる人々の存在を改めて認識し、感謝の気持ちを芽生えさせることが重要である。高学年段階における愛校心を育むためには、自分達が校風を担っているということに気づき、学校や先生への敬愛の念を基に、よりよい学校にしていこうと意識させる必要がある。そのためにも、小学校の最高学年であることを自覚させ、学校を愛する心を具体化していくための支援をしていかなければならず、具体化された活動を通して、学校の一員としての自分の役割を自覚し、みんなで協力してよりよい学校にしていこうとする態度を養うことが大切である。

（3）資料について

本資料「きえた紙くず」は、子どもたちの遊び場となっている学校の校庭がゴミだらけになってしまい、たけしくんという一人の少年の行動から、校庭からゴミが無くなっていく様子を描いた資料である。舞台となっている街には子どもたちが思い切り遊べるような場所がなかったため、放課後や休みの日に遊び場所として校庭を開放していた。しかし、遊びに来る子どもたちが校庭をよごしてしまうことが問題となる。注意してもなかなか改善されず、学校が困っている時、たけしくんが朝や休み時間に一人でゴミ拾いをはじめた。「たけし君が毎日ががんばっても、風が運んできたり、友だちが捨てたりするから、きれいにならんよ。どうする。」という教師の言葉がけに対し、「きれいになるまで拾い続けなければいい。」と答えるたけしくんの姿勢に感銘を受けた教師がその考えを全校に紹介する。子どもたちは共感し、たけし君の考えはどんどん広まり、学校でゴミをみかけることはなくなった。自分にできること、みんなでできることをしようと努力することの重要性に気づくことができる資料である。

3 指導方針

- 本主題は、愛校心である。「自分たちの学校のためにできることをしたい」「自分たちの学校をよりよくしていきたい」という気持ちを育てることや、「よりよい玉諸小学校にするために自分たちに何ができるか」ということを考えさせ、そのような態度を育てることが大切である。
- 導入では、これまでの学校行事を振り返り、全校のみんなのために頑張った学校行事と自分たちだけのために頑張った学年行事に分ける。それらを振り返る中で、より力を注いできた行事が、自分たちだけのために頑張った学年行事に偏っていたことを確認する。今回は「みんなのために自分たちができること」について考えていく。
- 展開前段では、資料「きえた紙くず」を読み、学校から紙くずが消えたのはなぜかを考えさせ、「たけしくん」の気持ちや行動の真意をとらえ、学校を大切に思う気持ちについて考えを深める。
- 展開後段では、「よりよい玉諸小」にするために、目標と行動を明確にしていくマンダラートを作成する。自分が残りの小学校生活でできることを具体的に言葉にして表すこと、友達の考えを聞くことでより行動を具体化していくきっかけにさせたい。
- 終末では、本時で考えたことを振り返り、学習感想を書く。お互いの内容を共有することで、学校の一員として、自分の役割を自覚し、みんなで協力してよりよい学校にしていこうとする態度を育てる。

4 研究との関わり

今年度の本校の研究主題は、「自ら考え、判断できる児童の育成を目指して」であり「道徳性を養うための授業実践を通して」を副主題に研究を進めてきている。

本時は、道徳の読み物資料を扱うのと同時に、プロ野球で活躍している大谷翔平選手が高校在学中に作成していた「マンダラート」(中心に自分の目標を掲げ、その目標を達成するために何をしたらいいのかを細かいステップで書いたもの)を児童に提示する。そして、自分たちが卒業するまでのあと4か月間、「よりよい玉諸小にするために自分たちに何ができるのか。そのためにどんな目標を掲げ、それを達成するために何ができるか」をまずはクラスごと考えさせる。その後、学年集会を開き、学年全体で一つのマンダラートを作成する。この活動を通して、6年生全員が「よりよい玉諸小をつくっていききたい」という気持ちを持てるように指導をしていきたい。

5 本時について

(1) 日時

平成 29 年度 10 月 31 日(火)

(2) 場所

6 学年 各教室

(3) ねらい

みんなで協力してよりよい学校をつくっていこうとする心情を育てる。

(4) 本時の展開

	学習活動 ○発問	・児童の発言	☆評価 □留意点
導入	<p>1. これまで行ってきた行事を振り返る。 ○6年生になって、創り上げてきた行事をあげてみよう。</p> <p>2. 本時の学習課題をつかむ。 ○自分が一番頑張ったと思う行事はどれか。</p> <p>○選ばれた行事とそうでなかった行事の違いは何だろうか。</p>	<p>・入学式, 1年生を迎える会, 縦割り発足式, 委員会, 修学旅行, 縦割り遊び, 運動会, 陸上記録会</p> <p>・運動会, 修学旅行, 陸上記録会</p>	<p>□あがってきた項目は、「自分のため」や「自分が楽しい」という行事が多いことを確認し、本時では「みんなのため」の行事について、考えていくことを確認する。</p>
展開	<p>3. 資料「きえた紙くず」を途中(～3日ぼうずでした。)まで教師が読む。 ○この後、紙くずが学校から消えたのはなぜだと思いますか。</p> <p>4. 資料「きえた紙くず」の続きを配布し、読む。 ○どうしてこの活動が続き、広まったのだろう。</p> <p>5. 考えを整理するために、マンダラートの仕組みを知る。</p>	<p>・使用禁止にしたから</p> <p>・ルールを決めたから</p> <p>・先生が怒ったから</p> <p>・拾ってくれている人のことを考えたら、捨てる事ができないから。</p> <p>・たけし君の気持ちがみんなに伝わって、拾う人が増えたから。</p> <p>・粘り強く拾い続けたから。</p>	<p>□たけし君の行動から、自分の学校に対する思いを考えさせる。</p> <p>☆たけし君の気持ちや行動の真意をとらえることで、自分の学校を大切に思う気持ちについて考えを深めることができたか。</p> <p>□目標と、行動を明確にしていくために行うものということをおさえる。</p>

	<p>6. よりよい玉諸小にするための、マンダラートを作成する。</p> <p>○よりよい玉諸小とはどのような学校ですか。</p> <p>○そのために自分たちができることは何か具体的にあげよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつができる学校 ・無言清掃ができる学校 ・楽しい学校 ・明るい学校 ・仲のよい学校 ・大きな声であいさつ ・掃除用具を大切にする ・友達に声をかける 	<p>□子どもの考えを素直に発言させる。</p> <p>□実際に行動できることを挙げさせる。</p>
終末	<p>7. 本時で考えたことを振り返り,学習感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの活動で,学校によい伝統を残していきたいと思う。 ・自分が学校にできることを少しでも見つけていきたいと思う。 	<p>□机間指導を行い,書けている児童の内容を共有する。</p>

6 評価

- ・自分の行動を見直し, よりよい学校にするための行動を考えることができたか。

7 事後の指導

- ・各学級で仕上げたマンダラートを学年全体で見比べ, 学年で一つのマンダラートを作成し, 今後の活動や行動に生かしていく。

8 板書計画

<div data-bbox="177 1554 469 1805" data-label="Image"> </div>	<p>き、広まったのでしようか。</p> <p>どうしてこの紙くず拾いの活動が続き、広まったのでしようか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拾ってくれている人のことを考えたら捨てる事ができないから。 ・たけし君の気持ちがみんなに伝わって、拾う人が増えたから。 ・粘り強く拾い続けたから。 	<div data-bbox="850 1431 1230 1608" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> 行事 活動 入学式 縦割り遊び 縦割り発足式 1年生を迎える会 修学旅行 運動会 委員会活動 陸上記録会 </div> <hr/> <div data-bbox="898 1653 1374 1957" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> きえた紙くず たけし ゴミ拾い なぜ紙くずが消えたのか？ ・ルールを作った ・禁止した ・たけしくんを中心に活動が広がった </div>
---	--	--

9 成果と課題

- ・導入で、6年生の2学期までの行事を提示し、まずは行事の振り返りができた。その中で「1番がんばった行事は」と子どもたちに質問すると、修学旅行、運動会、陸上記録会などが出てきた。その結果から自分自身のためにがんばった行事は印象深く心に残っているということに気づくことができた。
- ・「消えた紙くず」の題材は、子どもたちにとって分かりやすかった。
- ・「消えた紙くず」の文を途中で切ることで、「どうしてこの活動が続き、広まったのか」を子ども達一人一人が考える時間が持てたことはよかった。
- ・「消えた紙くず」や「マンダラート」の学習を通して、一人の頑張りが学校全体の頑張りにつながることに気付かせることができた。
- ・「マンダラート」の全ての項目をクラスで見つけることは難しいが、学年で1つのマンダラートをつくることで、よりよい玉諸小にするための項目立てをすることができた。
- ・「マンダラート」を作るときに、よりよい玉諸小にするための項目立てをし、自分たちに何ができるかを具体的にイメージできるよう声掛けができるとよかった。

10 資料

学習研究社『みんなのどうとく』

大谷翔平 マンダラート